

平成16年 12月 1日(水) 年末年始号(No.5)

あ じ ふ る さ と 阿 字 の 故 郷

てんのうざんじん ほ し せんじゅいん
天応山神保寺千手院情報誌
編集者：川 上 修 詮

平成十六年後半の行事報告

【閻魔様がケーブルテレビ出演】

七月十七日〔土〕にケーブルテレビの取材が有り、境内の閻魔十王堂と各立像が紹介され、インタビュアーを受けた住職が縁起の説明を致しました。

その後、数日間に渡り放送され、多くの檀信徒の方々が番組を見られたようで、良い反響をいただきました。

【相模檀信徒協議会で住職が講演】

九月十二日〔日〕午前十時より、伊勢原の国分寺本堂において、相模自治布教団と相模檀信徒協議会の共催で、阿字観研修会が開催されました。

先ず、実修を自治布教団長〔千手院住職〕が担当。次いで国分寺山縣和住職の講義が行われました。

檀信徒協議会の役員をはじめ、相模地区各寺院の檀信徒が総勢二十三名が参加致し、終了後は、地元名物の国分寺釜飯をいただき閉会となりました。

【秋季彼岸会と稻荷講の開催】

九月二十三日〔金〕中日の午前十一時より、境内稻荷堂前にて、千手院御詠歌講による奉詠が始めて行われ、次いで、住職の読経と法話が行われました。

正午からは、境内で昼食を取りながらの歓談と続き、墓参の方々も加わって、にぎやかな一日となりました。



【京浜地区枢議参与研修会へ参加】

十月十四日午後一時より、翌十五日午前十時までの間、相模宗務支所担当で静岡県熱海市の後楽園ホテルを会場に研修会が開催されました。

千手院は、近隣の広徳寺檀信徒と相乗りで小型バスをチャーターし、総勢二十名で広徳寺板坂光明ご住職引率のもと現地へと向かいました。(※千手院住職は、自治布教団長のため、準備の都合で先発しておりバスには同乗できませんでした。)

当日は、関東支所の檀信徒約三百二十名が参加し、本山総務部長真田有範僧正様をはじめ、東京別院主監服部融宣僧正様・第二伝道団長鈴木英全僧正様・蒼宿宗会議員森芳光僧正様・宗会議員四之宮弘孝僧正様・中川弘道僧正様・吉井良弘様・東日本支所会各支所長様をご来賓としてお迎えいたしました。

開会式後の講演は、高野山大学教授の村上保壽先生が、「お大師様のおしえ」と題し、いろいろな研究の成果を述べられました。

先ず、「歴史や文献上の人物像ではなく、修行に依って培われてきた、真実のお大師

さまの姿を、多くの檀信徒の方々に解って頂くための努力が、今日求められている。」

また、「人間の存在意義は、他人との関係を抜きにしてはあり得ないことで、お互いに相手を認識することで始めて、自分の命を感じる事ができる。それは、自然や動物との関係の中でも同じことが言える。」

そして、「現実の世界は、多様な姿が変化し続けているため、大日如来の展開として認識することができず、全てが根底で一つにつながっていることが、目に見えなくなっている。」と、以上を述べられた後、

「絶対唯一のものは、いのちの根源そのものであり。密教で言う仏は命の根源の現れである。それを知ることがきっかけとなり、自然に生きるための智慧へとつながっていくのです。」と結ばれました。

普段は学術研究者として複雑で難解な資料と向かい合っている成果を、現実社会に結びつけてお話をいただき、参加者はお大師さまへの思い新たに致しました。

初日二回目の講演は、三遊亭楽太郎師匠の「笑いと言葉のちから」についての話を伺いました。

テレビでの姿とは異なり、背広姿で颯爽

と壇上に着かれ、立て板に水のごとく挨拶の後、つかみを取って視線を一転に集めます。

笑点の、メンバーを引き合いに出しては、自分の優位を自慢しながらの始まり、それが快く聞ける所はさすがとしか言いようがありません。

本題は、笑いに対する反応の違いが、時代によって変化していき、地域に依ってもバリエーションが現れてくる。それを、政治や宗教のたどってきた歴史の違いと位置づけ、展開させていきます。

また、笑いの対面にストレスを置くことで、今の社会で起こっている殺伐とした感じを、「多様性を認めない社会の風潮に有るのではないか。」と感想を話し、笑いを軽視する事の危うさを熱弁されました。

最後に、「表現の違いによって同じ内容のことが良くも悪くもなる。同じ伝達手段をとるなら、明るく楽しく伝えた方がいい。

笑顔で話すことで、豊かな社会になればいいと思います。」と括られました。

会場からは、盛大な拍手で初日の講演を終了致しました。

二日目は、金剛流御詠歌相模連合支部青

年教師による奉詠に始まり、引き続き、日本子守歌協会の西館好子先生のお話と、ギタリストの原莊介さんの演奏による「今、こもりうたのぬくもり」を演題としての講演が行われました。

西館先生は、現代に蔓延する引きこもりの問題を先ず提起され、子供たちの自制心の喪失と、大人たちの教育に対する能力不足を指摘すると共に、それらの解決のヒントが、子守歌の中にあると述べられました。

子守歌衰退の原因には、「親たちが家庭生活から遠のき、子供たちと過ごす時間の少なさから、歌って聞かせる機会が激減しているからではないか。」というお話の後、実際の子守歌を紹介し、原さんが演奏をされました。

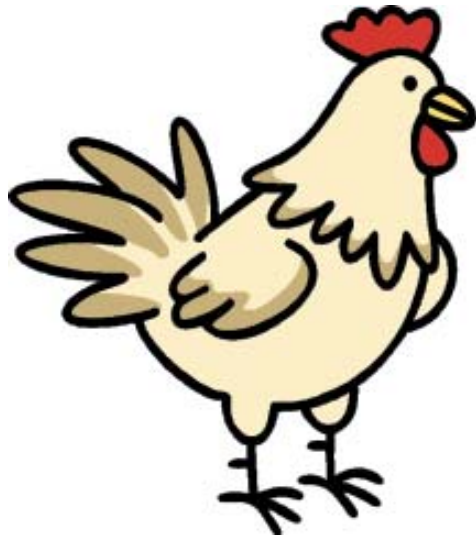
その中で、東北には、夜なべ仕事の都合で、子供を早く寝付かせるため、脅して寝かしつけるための子守歌が多いこと。

また、江戸時代の中期には、子守歌の原型となる曲も多く生まれ、庶民文化の開花により、各地の特色も発揮されるなどの世情もお話し頂きました。

「母親の数だけ存在する子守歌を、もっともっと歌っていけるような、そんな世の中

になることを願って止みません。」と、西館先生の思いが、会場の参列者の心に染み渡るようなお話でした。

研修会の最後は、御宝号念誦運動の実践として、お大師様の御宝号を二十一遍唱和し、参加者全員から寄進された運動寄金を、高野山枢議重田英弘檀信徒協議会参与会相模支部長が代表して奉納いたしました。



【東京別院萬燈萬華会】

十月二十一日〔木〕午後三時より東京高輪の高野山東京別院でローソク祭りが行われました。

先ずインド古典舞踊と宗教舞踊・金剛流

御詠歌合唱団による奉納演舞奉詠が行われ、午後四時からは、稚児行列や僧侶のお練り行列と続き、次いで、管長猊下を御導師様にお迎えしての般若若転読護摩祈祷大法会が執行され、お札の祈願が盛大に行われました。

午後六時半からは、北村英治スーパージャズバンドによるミニコンサートが開かれ、地元町内会や関東近県からの団体参拝の方々でにぎわいました。

来年の開催は、十月二十二日〔土〕となりましたので、千手院の檀信徒の方々にも、団体バスツアーを計画したいと思っております。

年末年始の行事予定

【本堂と境内の大掃除】

十二月二十六日〔日〕午前九時より、千手院本堂と境内の年末大掃除を行います。

年末でご多忙のなかとは思いますが、お手伝い頂ける方は、千手院寺務所までご連絡下さい。

尚、昼食は当方でご用意致しますので、

住職や世話人と歓談する良い機会だと思
います。是非ご参加下さい。

【年越読経と新年祈祷会】

大晦日のごご十一時頃より元日の午前一
時頃までの間、年始にお配りするお守り札
のご祈願を兼ねて、年越しの読経を執行致
します。

精進おせち料理もございますので、熊野
詣でのお帰りにでもお寄り下さい。お待ち
しております。

【初詣受付で干支の土鈴を授与】

元旦・二日・三日のお参りにいらした方
には、干支土鈴の置物を授与いたします。
数に限りがありますので、品切れの際はご
了承下さい。

また、好評の弘法大師御宝曆も一冊千円
で販売致しておりますが、こちらも数に限
りが有りますので、売り切れ次第で完売と
いたします。

平成十七年前半の行事予定

【圓藏寺節分大護摩祈祷会】

二月三日(木)午前十一時に茅ヶ崎駅前
の圓藏寺で護摩祈祷大法会が、近隣住職集
合のもとで行われます。

護摩札をご希望の方は、一月十五日ま
でに千手院寺務所までお申し込み下さ
い。法会終了後にお渡しいたします。

※一願につき金二千五百円です。

【春季彼岸会と閻魔十王講】

三月二十日(日)お中日の午前十一時
より、境内閻魔十王堂前にて閻魔講を開
催。

御詠歌奉詠・読経・法話・昼食歓談の
順序で行います。

壇信徒新圓員寂の過去帳

故水島祐子殿	66歳	(九月二日寂)
故山口トウ殿	91歳	(九月十五日寂)
故三浦ふよ殿	90歳	(十月四日寂)
故坂本洋子殿	69歳	(十月二十四日寂)

以上の各御霊に対し、過去帳に記帳の上、永
代にご供養申し上げます。

合掌

高野山真言宗 天応山神保寺

千手院

〒253-0015 茅ヶ崎市代官町1番4号

電話 0467(51)9758

FAX 0467(51)0561

ホーム <http://www.shusen.com/senjuin/index.html>

メール senjuin@shusen.com